令和２年度
伊平屋村教職員激励会・施策説明・教育長講話開催

令和２年（2020年）
４月７日（火）

第１号

教育委員会たより
シャイニング

文　責
伊平屋村
教育委員会
金子　智彰

新しい出会いに感謝
～新たな決意を胸に～

令和二年四月二日（木）、伊平屋村離島振興総合センター大ホールにて、伊平屋村教職員激励会が挙行されました。

金城信光議長の激励の挨拶では「伊平屋でこそできる教育活動」への取組、教育長職務代理からは「地域行事への参加、子供・地域住民との積極的な交流」への期待を含めた激励があり、伊平屋小学校、金城正武校長の歓迎のあいさつは「理想とする教師像・子供像へ近づける職務遂行」への願いが語られました。

新職員決意の言葉では、管理職を代表し、本村赴任二度目となる、比嘉克章校長（伊平屋中学校）が、村民の人情や地域・保護者・行政の思いを受け、三校団結していくことへの強い決意が語られました。また、迎里愛美教諭（伊平屋小学校）からは、村の宝として守られ、温かな愛情の中育つ子供たちに関わるうれしさとチャレンジ精神を持って取り組むことなど、素晴らしい決意表明がありました。

伊平屋島の豊かな大自然の中で、素直で純粋な子供達に、先生方の情熱あふれる新たな風を吹かせてくれるはずです。

離島勤務では、幼児・児童・生徒一人ひとりの個性を大事にし、そのよさを伸ばしてあげるとともに、地域の中に溶け込み、さまざまな教育活動を追い求め続ける教職員であるとともに、地域活動や交流を通して地域を知り、さらに広い視野で世界を眺め、社会に羽ばたける人材を育てていきたいと強く切望します。

今年度も伊平屋村教育委員会と学校の自主性を支援していくとともに、学校・地域間の連携を進めていきたい橋渡し役に邁進します。

伊平屋小

伊平屋中

野甫小中

「教育長講話」
「問い」から創り出す学校へ

伊平屋村教育委員会
教育長　東恩納　吉一

午後三時半から、全教職員並びに教育委員会職員対象の「教育長講話」がありました。

演題は「教師として必要とされる組織マネジメント」です。

「学校はどんな営みをする場所か？」「学校で必要な教師力とは？」「学校で求められていること」「伊平屋村の教育について」「赴任されている先生方に期待すること」等々、教育長の「問い」がさらに先生方の「問い」を引き出し、さまざまな思いや考え、感情や気づきを引きだしてくれました。その中で、自分との対話ができたり、同僚の「見方・考え方」を知ることで、比較しながら考えたりすることができる場になりました。

講話の中で出てきたキーワード、「教師間の和」「課題意識の明確化と統一性」は今の本村には強く求められることであり、今後の組織としての学校づくり、教師一人一人の資質向上につながることの重要性を実感できる機会になりました。

教育長講話により、伊平屋島で求められる教師像、そして、自ら教員として鍛えたい部分での方向性をつかむことができたはずです。

「学校」という小さな社会の中、子供達や同僚との生活の中で「問い」が生まれ、先生方が自分自身と対話しながら協同的・組織的に解決する学校であることを願っています。

【式次第】

激励会

司会　国吉係長

1　はじめのことば　教育課長
2　歓迎の挨拶
　伊平屋村議長　金城 信光
　教育長職務代理　与那覇竹盛
　伊平屋小学校長　金城　正武
3　三校新職員紹介（野甫・伊小・伊中）
4　決意の言葉
　管理職代表：比嘉 克章校長（伊平屋中）
　教職員代表：迎里 愛美教諭（野甫小）
5　教育委員・教育委員会職員紹介
　教育課長

教育施策説明

1　施策説明　指導主事
2　質疑応答

教育長講話

司会　指導主事

1　開会のことば　司　会
2　教育長講話
　演題『教師として必要とされる組織マネジメント』
　教育長　東恩納　吉一
3　質疑応答
4　おわりのことば